



華となれ

宮城県仙台二華中学校

令和6年度学校だより 第1号

【発行日】 令和6年4月18日

【連絡先】 022-296-8104

【文責】 副校長 武田 誠

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ」には、社会に貢献できる真のリーダー（華=社会の中心）となってほしいという願いを込めています。

4月8日（月）、中高の2・3年生が一堂に会し、令和6年度の始業式を行いました。



令和6年度始業式 式辞

宮城県仙台二華中学校・高等学校長

佐藤 弘人

二華の校庭の桜は満開、正門のしだれ桜も開花しました。新しい学年のはじまりです。

草花は、回りの気温、日照時間、太陽の高度など気象の変化を読み取って成長につなげているようです。さて私たち人間は何を感じとって成長につなげているのでしょうか。気象の変化でしょうか。4月になり新学期が始まり学年が1つ上がるからでしょうか。それともたっぷり栄養を取り込んだからでしょうか。

校長先生は精神的な成長について二つのことを考えています。人間の心が成長するには、第一に、自身があるべき姿に対して不完全であるということに自覚すること。言い換えれば「無知の知」です。無知を自覚してどんなに学びを積み重ねたとしても、新たに書物・先生・友人・自然の全てから学ぶ姿勢です。新たな知恵を受け入れる土壌とも言えます。小説家の吉川英治さんは「自分以外のものは皆師匠である」と言っています。

第二に、成長しようという明確な意志がなければ成長しないというものです。周りの環境の変化や、成長を促す働きかけがあっても、そもそも成長したいという意志がなければ、きっかけに気付かずチャンスを逃してしまうでしょう。自身の姿の成長は年月がそれを促すでしょう。しかし、心の成長は年月だけではないということです。植物の成長とはそこが違うのかもしれません。特に皆さんの場合は、子どもから大人への成長の時期です。志を立ててそれに向かう明確な意志を持って欲しいのです。進路目標でも良いですが、二華の生徒はもっと先の生き方で、どのような形で自分は社会に貢献するのかの意志です。

始業式にあたっては、この第二の成長する意志について、もう少し話をします。「耕せども尽きず」「耕不盡」という言葉や考え方があります。これは、私が成長を考える上で心構えとしていることです。私は20代の頃に小牛田農林高校で勤めたことがありました。この学校の校訓である「耕不盡」という額が校舎入り口に掲げられているのを毎日目にしていました。「ここは農林高校、田畑は耕せば耕すほど、土地が肥えて作物もよく実る。尽きることのない努力の継続。」というように理解し、自分の心がけにしていたのですが、教員として子どもから大人に成長しようとする生徒と向き合い、年月を重ねる中でこの言葉の意味を振り返る時に、どんどん深さと重みが増していることに気付きました。

技師の佐々木武夫さんのテニスコート脇の花壇整備の話を知っていますか？今から7年程前に花壇の土を入れ替えて季節の花を植え始めたそうです。皆さんが明るい気持ちで登校できるようにという願いがあったということでしたよね。3月31日の武夫さんの退職の日に花壇を見ながら一緒に歩きました。武夫さんが話してくれました。「この花壇の土は3年から4年かけてやっと良い土になってきた、最初に土を入れた時は、雨が降るとすぐに流れ、水持ちや肥料の持ちも悪く、植物の根の付き方も十分ではなく、花もあまり咲かなかった。いろいろ試してやっとここ2、3年良い花が咲くようになった。」「オレも勉強したっちゃ！」とのこと。「耕せども尽きず」この言葉を実践してきた武夫さんの後ろ姿がとても大きく感じられました。失礼ながらも私は武夫さんにまさしく立派に成長した「大人」を感じていました。

人が成長するには、成長しようとする意志と受け入れる土壌が必要と言いました。私も含めて皆さんが成長するには、常に自分の心の土壌を耕しておかねばなりません。水や肥料や日光や空気を吸収しやすい状態にしておいて種をまけば、芽が出て、花が咲き、やがて見事な実を結ぶことができます。これとは反対に、心の土壌が硬くては、水も肥料も吸収することができなくて、どんなに良い種をまいても立派に育つことは不可能です。怠ること無く常に自分の心の土壌を耕して、素直に人や自然からの教えを受け取るところに自己の成長があるのだと思います。これも「耕せども尽きず」だと思います。

まとめてみると、どう生きるべきかの目標を立て、それに向かう強い意志を持ち、無知を自覚し、周りのもの全てから学ぶ姿勢を持つこと。そのためにも自身の受け入れる土壌を耕し続けること。これらが大切ということです。

さあ、今日から二華での新たなスタートです。今年二華は創立120周年を刻む節目の年です。各行事にこの節目の年が意識されます。学校の学習環境の整備もこれから2、3年かけて進みます。そして二華は皆さんと競争するように成長を続けます。

心機一転、新たな仲間そして先生方とともに成長の意志を持って歩いていきましょう。

令和6年度入学式

令和6年度の入学生105名が新たに二華生の仲間に加わりました。全校生徒315名と24名の教職員スタッフで宮城県仙台二華中学校がスタートしました。



《 新入生代表の言葉 》 仙台二華中学校 入学生代表 S. Mさん

春風に誘われてたくさんの生命（いのち）が芽吹き、今、明るい光にむかって伸びゆこうとしています。今日のよき日、私たち令和6年度 宮城県仙台二華中学校新入生のために、このような素晴らしい入学式を開いていただき、ありがとうございます。仙台二華中学校には、様々な小学校から仲間が集まっています。緊張や不安もありますが、新たに出会えた仲間たちとのこれからの学校生活への希望で胸がいっぱいです。

私が中学校生活の中で特に頑張りたいことは英語です。中学校から始まる本格的な学習を通して英語の力をつけ、様々な国の人と交流できるようになりたいです。また学習だけでなく、学校行事などに真剣に取り組むことで、社会のリーダーとなるための力を身に付けたいです。

私は将来、医師として世界で活躍したいと考えています。そして病院に行きたくても行けない人を少しでも助け、多くの命を救いたいと思っています。世界を舞台として働き、多くの国の人と関わるには、「相手を知り、尊重すること」が必要不可欠です。そのために、これから始まる仙台二華中学校の生活では、多くの人と積極的に関わり、たくさんの経験を積み重ねて、将来の夢に一歩ずつ近づきたいと思っています。

これから始まる学校生活に向けて、私たち1年生は一丸となって、何事にも主体的に行動し、将来の夢や目標に向け、共に努力していきます。先生方、先輩の皆さん、御指導のほどよろしく願いいたします。

仙台二華中学校の生徒であることに誇りをもち、これからの六年間、仲間と助け合い、高め合って、自らを成長させることを誓い、入学の言葉といたします。



夢に向かって…凡事徹底：時を守り、場を浄め、礼を正す

新年度の開始にあたり、各学年の集会で話す機会をいただきました。

本校の校訓である「進取創造」「至誠貢献」を意識し、それぞれが自分の目標や夢に向かって成長していくために、今年度、生徒も教員も「二華中の当たり前＝凡事徹底」を合い言葉にしていきたいと思います。話し合いました。「時を守る」「場を浄める」「礼を正す」には、それぞれの項目に「自分とあなた」の存在が含まれていること、それぞれがルール、モラル、マナーに通じていることも伝えました。凡事徹底による、しっかりとした生活習慣、安全で安心な学校生活という基盤の上にこそ、各自の夢の達成があります。今年1年、声を掛け合いながら進んでまいります。

書道部の皆さんが書いた作品を掲示しています

